

海洋生物観察実習について

8月17日(日)～19日(火)の3日間、山口県下関市にある水産大学の協力のもと、海洋生物観察実習を実施しました。この実習は、教室での学習だけでは得られない「自然の中での学び」を体験できる貴重な機会です。潮の香りや水の冷たさ、生き物の動きなどを五感で感じながら、生物や環境を調べる活動を行いました。



アマモをスケッチしています



アマモを観察しています



網にかかった生物をバケツに移しました

初日には、海草であるアマモやコアマモを観察しました。教科書の写真や図でしか見られない植物ですが、実物を目の前にすると葉の厚みや広がり方など、立体的な特徴がよく分かります。単に知識を覚えるだけでなく、自分の目で見て気づき、考えることの大切さを学ぶことができました。



採集したアマモを顕微鏡で観察しています

2日目は、秋穂湾の浅瀬に入り、アマモやコアマモの生息範囲を調べました。また、地引き網を使って魚やエビを採集しました。網を引く作業は重労働でしたが、引き上げた網の中で元気に泳ぐ生き物たちを目にすると、自然の豊かさを実感できました。採集後は図鑑を用いて生物について調べました。魚は比較的容易に判別できましたが、エビ類は細かい特徴を確認する必要があり、研究に必要な根気と注意深さを身をもって学ぶ場となりました。

3日目には、採取した生物を標本として保存する作業を行いました。ホルマリンやアルコールを使うため、安全に注意しながら丁寧に進める必要がありました。一見単純に見える作業でも、研究者の姿勢として細心の注意を払うことの大切さを体験しました。



図鑑を使って種の同定をしています

この3日間を通じて、「研究は地道な作業の積み重ねで成り立つ」ということを実感しました。同時に、自然を直接体験しながら調べ、考え、まとめる一連の流れを経験することで、事前指導で学んだ知識がより深く理解できるようになりました。今回の実習は、研究の手法を学び、自然や科学により強い関心をもつきっかけとなりました。今後は、この実習での気づきや疑問について、班で共有するとともに、得られたデータを用いた考察と発表会を行います。